

risei + trip

vol.
02



特集

師弟のきずな
(柔道整復学科篇)

師弟のきずな。

柔道整復学科篇

京都府伏見区に接骨院をかまえる
梅本裕幸さんが履正社の柔道整復学科を
卒業したのは、12年前のこと。
3年間担任を務めた田中雅博副校長が、
小春日和の京都に梅本さんを訪ねました。



photographs by Naohiro Kurashina



梅本裕幸さん

昭和48年京都府生まれ。柔道整復師。大学卒業後、商社勤務を経て履正社医療スポーツ専門学校柔道整復学科に入学。整形外科で5年間、接骨院で8年間勤めた後、15年7月、京都府伏見区にうめもと接骨院を開院した。

ホームページは
<http://www.umemoto-sekkotsuin.com/>

田中 ご無沙汰しています。と言っても、2カ月ぶりくらいかな？

梅本 そうですね。先生にはよく来ていただいているので。

田中 かわいい教え子がやっている院は、やっぱり定期的に見に来たくなりますよ。開院して2年半、順調に患者さんも増えているみたいだね。

梅本 おかげさまで何とかやっています。今はもっと地域の皆さんに知ってもらって、スタッフも増やしたいなと思っています。

田中 もともと、梅本君は商社で数年勤めた後、29歳で履正社に入学してきたよね。その理由は？

梅本 会社の名前が頼みならず、自分の力でできることがなかったからです。野球をしていた時に肩の怪我で苦しんだので、治療家の道に興味がありました。そこで、開業ができ、スポーツにかかわれる柔道整復師がいいなと。履正社は特にスポーツに力を入れていたので、進学を決めました。

田中 トレーナーの授業も選択して受講してたね。

梅本 プロトレーナーの方が先生でいらしたので、そこで得た色んな知識が、今もアスリートへの施術や、フォーム指導を行う際の財産になっています。

「稼ぎたいんか、勉強したいんか」

田中 梅本君といえば、入学してすぐ、「アルバイト先を紹介してほしい」と言ってきたなあ。

梅本 そうですね。今でも覚えていますけど、先生は「稼ぎたいんか、勉強したいんか、どっちや」として(笑)。

田中 それで「両方です」と言われちゃってね(笑)。君は大学までの野球経験が強み、持ち味だったから、それを活かしてもらおうと、勤務先には整形外科を紹介しました。

梅本 あの臨床現場での経験がなかったら、今の僕はなかったかもかもしれません。仕事の前に、英語の文献をもとにドクターが勉強会を開くような職場で。学校の勉強よりも大変でしたけど、整形外科では接骨院では得られない知識がたくさんあったので、本当のためにになりました。

田中 厳しいところやけど、スポーツに関する症例も多く扱ってたからね。でも、誰にでも勧めるわけじゃない。やっぱり、君が真面目やったからやな。

就職活動はゼロ。

梅本 他の学生にも、たくさんバイト先や就職先を紹介しましたよね。

田中 今の時代、ブラックな職場もあるし、アルバイトでも就職先でも、自分の目で確かめたところにしかな学生は送られへんでしょ。その上で、学生本人の持っ味を活かせるところを紹介する。それが一番。

梅本 自分は就職もその整形外科にさせてもらったので就職活動はゼロでしたし、開業する時も、まっ先に相談しましたよね。他校の話も聞きますけど、ここまでフォローしてくれる学校はまずないです。卒業したらそれっきりになる学校がほとんど。

田中 その代わり、君は履正社の学生を実習生として受け入れてくれている。僕は次の代、その次の代へと履正社柔道整復学科の絆を繋いでいけたらと思ってるんです。卒業生の下で、一生懸命働く後輩の姿を見て、現場の人物に憧れるようになり、履正社へ入学する。そういう繋がりをずっと大切にしたい。

梅本 信頼関係の輪がどんどん広がっていきますね。この絆がいつまでも続いて欲しいなと思います。